

# 教育改革：歴史はくりかえす、されど・・・

石田 貴文 (生物科学専攻 教授)



「東京大学の秋入学・・・」が世間を騒がせ、そして騒がせただけで終わった。と言って良い今日この頃である。大学を良くしよう、より良い教育・研究環境を実現しよう、という心はいつの時代にも綿々と紡がれている。現「理学部ニュース」は、あの大学紛争(1960年代)の後に理学部内の教官・学生・職員のあいだの風通しを良くするために「理学部広報」と銘打って発刊された。1969年11月、理学部広報第1巻13号に「大学院の現在と将来(東大理学系大学院の立場

から)」と言う記事が、4ページに亘り、理念、制度、組織、教育・研究、院生の生活、教官に関して掲載されている(理学系研究科のホームページからバックナンバーが読める <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/story/newsletter/>)。さすが「理学部」と思わないだろうか?問題を伶俐にとらえ、衒い無く a(建前)~e(当面の方策)にまとめあげている(図参照)。しかも全4ページでカタカナ用語が使われるのは10回のみである。これを先日配布され、皆さんの手元にあるであろう学内広報 no.1443 特別号「ワールドクラスの大学教育の実現のために 学部教育の総合的改革」と見くらべて欲しい。2013年の学

内広報ではどうしてこんなにカタカナを使うのだろうか?アクションリスト?ナンバリング制?グローバル化?ちなみに、私のパソコンで文字変換すると「愚弄張るか」になる。この記事を書いていると、昔の映画「会議は踊る」の主題歌 'Das gibt's nur einmal...' が聞こえてくる。それは、「ただ一度」。でも「歴史はくりかえす、されど・・・」

大学院の現在と将来 (東大理学系大学院の立場から)

この資料は理学系研究科教員長(図説資料)として第4号の題名をまとめたものである(昭和49年10月発行)

A. 理念の明確	B. 課程の目的	C. 課程の設計	D. 教育の方策	E. 教育の保障
1. 学部教育との関係 2. 学位課程の目的 3. 学位課程の修業年限 4. 学位課程の修業単位	1. 学部教育との関係 2. 学位課程の目的 3. 学位課程の修業年限 4. 学位課程の修業単位	1. 学位課程の目的 2. 学位課程の修業年限 3. 学位課程の修業単位	1. 学位課程の目的 2. 学位課程の修業年限 3. 学位課程の修業単位	1. 学位課程の目的 2. 学位課程の修業年限 3. 学位課程の修業単位

■ 半世紀近く前の「大学院改革」に向けた資料

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

( ) は原著が英文 (和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
2013年9月17日付学位授与者(2名)			
課程	生化	青木 真理	マウス嗅細胞の背腹軸に沿った投射に於ける Robo1 陽性グリア細胞の役割
課程	生化	秋元 勇輝	細胞運命決定機構多入力多出力経路における backward elimination PLS regression 法を用いた解析 ( )
2013年9月27日付学位授与者(10名)			
課程	物理	巫 浩	生体膜に対するグラフト高分子の効果 ( )
課程	物理	張 弘	Selberg 積分とゲージ/戸田双対性 ( )
課程	天文	小山 翔子	ミリ波 VLBI 観測によるレーザー Mrk 501 の電波コアの高精度位置決定 ( )
課程	天文	野田 博文	X 線衛星「すざく」による活動銀河核セントラルエンジンの研究 ( )
課程	天文	守屋 堯	星周物質と相互作用する超新星 ( )
課程	地惑	平野 史朗	媒質境界に沿う、および媒質境界と交わる断層の動的破壊に関する理論的解析
課程	化学	大和田成起	チタンサファイアレーザーの高次高調波によってシードされた極端紫外領域自由電子レーザーによる原子の多光子イオン化およびレーザー誘起フィラメントによる後方蛍光の増幅 ( )
課程	生科	井手 隆広	外腕ダイニンのクラミドモナス軸系微小管上への構築に必要な蛋白質間相互作用の研究 ( )
課程	生科	久永 哲也	ATM 依存的 DNA 損傷応答経路が植物の発生に果たす役割の解明 ( )
課程	生科	黄 慶輝	爬虫類における免疫プロテアソームサブユニット <i>PSMB8</i> 遺伝子の二型性の進化 ( )